

豊橋市民病院だより

# 青竹

NO.  
48

2011.3.31

- 2 特集 豊橋市民病院の台所事情
- 4 事務局から
- 5 看護局から
- 6 診療技術局から
- 7 くすり箱
- 8 提案箱～提案を活用させて頂きました～
- 10 あとがき
- 11 お知らせ

編集：病院広報紙編集委員会  
委員長 鈴木 伸行



豊橋市民病院

## 豊橋市民病院 事務局長 大須賀 俊裕

豊橋市民病院は、病床数910床、標榜科35科、医師数173人（初期臨床研修医35人を除く）、看護師683人、その他の職員199人を含め1055人と市役所職員3469人のうち約3分の1の人数を占める最も大きな組織です。また、その規模は全国の自治体病院の中でもトップクラスで、1日外来患者数約2230人、1日入院患者数約760人の急性期医療（発症直後の患者さんに、一定期間集中的な治療をするための病床を持つ病院）を担う病院です。

また、自治体病院として、採算性が確保できない救急医療、新生児医療、周産期医療やへき地医療などの政策的な医療も担っており、東三河の基幹病院としての役割・機能を併せ持った病院でもあります。

平成8年に現在の青竹町に移転し14年目を迎えますが、その移転に要した投資額は約440億円余で、その財源として用地取得65億円余を除く375億円のうち322億円（85.9%）を起債（借金）で賄っており、これまで141億3900万円余の利息の返済をしております。豊橋市民病院の平成21年度末における累積赤字87億2392万円余は、この起債の借入れによる利息の支払いが大きな要因の一つです。平成21年度は5億8800万円余の赤字決算となりましたが、年間を通じた資金需要に対しては、資金不足による他会計からの一時借入金の必要もなくキャッシュ・フロー（現金収支）として問題のない状況で運営されております。

市民病院の会計は、地方公営企業法の適用を受け独立採算のもとに行われております。従って、市民病院の経営は税金で賄われているのではなく、民間の病院と同様、患者さんの治療を行い、その診療報酬を得て病院運営に必要な人件費や薬品費などの支払いに充てております。ただし、救急医療など通常の医業収益だけでは明らかに採算性を確保できない政策的な医療や費用については、地方公営企業法の規定に基づき、その収支不足分を一般会計から繰入れております。

当然のことながら、自治体病院は、「良質な医療提供」と「健全経営」を両立させる病院運営をしていかなければなりません。そこで豊橋市民病院では、平成20年度から25年度を期間とする「豊橋市民病院改革プラン（豊橋市民病院事業中期経営計画）」を作成し、市民病院の果たすべき役割や経営の効率化などの運営方針を定めており、平成25年度には黒字を計上することができるものと考えております。

最後に、本院の使命である、「豊橋市民病院に行けば何とかしてもらえる。」「豊橋市民病院に行ったら満足した。」と言ってもらえるような病院をめざして職員一同、頑張っていますが、私達の気付かないこともありますので、患者さんの目線で、ご意見やご提案をお近くの「提案箱」に投書して頂ければ幸いです。





## 患者総合支援センターからのお知らせ

### ～市民病院を退院した患者さんは何処に行くの？～

豊橋市民病院は急性期医療を担う病院として緊急患者や重症患者を受け入れ、入院治療を行っています。市民病院での治療が終わると介護サービスなどを利用し療養環境を整えて自宅に帰る患者さんや福祉施設へ入所される患者さん、市民病院での治療は終わったものの引き続き何らかの治療等が必要で他の医療機関へ転院する患者さんに分かります。

市民病院内にある患者総合支援センターでは、こうした転院の調整を行っています。そこで、どのような患者さんがどのような医療機関に転院して行かれるのか、またその転院先の受け入れ状況についてご紹介します。

#### －転院先医療機関の種類－

従来は「医療機関完結型医療」として、一つの医療機関で病気やケガが治るまで治療を行っていましたが、今では症状に応じてそれぞれの機能を持った地域の医療機関が連携して治療を行う「地域完結型医療」に変わってきています。それぞれの機能とは次の3つの機能に分かれています。

##### (1) 急性期医療機関

急性疾患または重症患者さんの治療を行う高度専門医療機関であり、入院期間は短く、重篤な患者さんの受け入れベッドを確保するため、症状がある程度安定した患者さんは退院となります。急性期医療機関である豊橋市民病院の平均入院期間は15日程度となっています。

##### (2) 回復期医療機関

脳梗塞後遺症などのある患者さんの症状改善のため身体的機能訓練（リハビリ）を中心に行う医療機関です。入院期間は概ね2～3ヶ月です。

##### (3) 慢性期（療養型）医療機関

急性期の状態から安定期に移り、治療は一段落したものの、もう少し病院での療養が必要な患者さんが療養目的で入院する医療機関です。入院期間は比較的長期となります。

※回復期、慢性期、いずれの医療機関もベッドの空き状況から、転院申し込みをしてもすぐに転院出来るとは限りません。特に慢性期医療機関は長期入院が可能であることから、ベッドもなかなか空かず待機期間が長期となる場合が多くあります。このため患者総合支援センターでは、患者さんが市民病院に入院した早い段階から退院後の転院先などについて調整させていただいています。

## 患者総合支援センターの看護師の仕事のご紹介

こんにちは。患者総合支援センターの看護師の原田姫子です。

平成22年4月に患者総合支援センターが開設されました。

私のここでの大きな役割のひとつに、退院支援・調整があります。皆さんには聞きなれない言葉かと思いますが、そこで私がどのような業務を行うのか、お話しさせていただきます。

退院支援とは、患者さんやご家族の方が退院後の療養生活の不安を少しでも軽減できるように、その思いを引き出しながら必要な情報を提供し、退院後も医療を継続できるように調整することです。

また退院調整とは、患者さんやご家族の方が自宅や他施設（老人ホームなど）で療養を継続していくために、必要な環境を整える業務です。

当院で治療を終え、いざ退院の許可が出たとき、

「今の状態では1人暮らし。家は年寄り2人だけの暮らしだから。家に帰ってもみんな働きに出て1人になってしまうから、自宅に退院するのは困ってしまう。」

「転院と言われたけど、どのような病院に行けばよいのか。どんな病院があるのか全然わからない。」

「今までは布団の生活だったけれど、退院したらベッドでないと困る。トイレに行っても立ち上がりができないし……。」

「今の状態で頻繁に豊橋市民病院に通うのは大変。家に往診に来てもらえる先生はいないか。看護師さんも来てもらえるといいかな。」

など、いろいろな心配が出てくると思います。そんなときは、お気軽に患者総合支援センターにお立ち寄り下さい。早めにご相談していただくと、いろいろな対策を考えることができます。

患者さんやご家族の方が安心して退院できる生活環境を整えられるように、患者さんの声にしっかりと耳を傾けていきたいと思っています。





# 診療技術局から

## 臨床工学室

### 第30回全国一斉「腎移植普及街頭キャンペーン」に参加しました

昨年10月3日に行われた第30回全国一斉「腎移植普及街頭キャンペーン」に臨床工学技士、移植外科医師、移植コーディネーター看護師とで参加しました。今回で、30回目となり愛知県でも県内14カ所で腎臓移植・臓器移植普及のために、街頭での意思表示カードや風船等の配布のキャンペーン活動が取り組みられました。

この活動は、全国腎臓病患者連絡協議会（全腎協）が、はじめて1981年に「腎バンク登録者拡大全国一斉街頭キャンペーン」として実施し、1986年からは厚生労働省が毎年10月を「腎移植推進月間」と決めました。腎臓病患者団体である全腎協から始まった運動が、国や地方自治体を巻き込んだ活動へと発展してきました。

私たち臨床工学技士も愛知県臨床工学技士会の呼びかけで、一昨年につづき腎移植普及街頭キャンペーンに参加しました。病院以外の場所で患者さんと一緒に行う活動は初めてで、みなさんボランティアとして気軽に参加でき、初めて参加した人からは「患者さんだけではなく、医師や看護師さんも一緒にやっているんですね」とびっくりしていました。

私たちも医療従事者として、腎臓病や難病と闘っている人たちと一緒にいろいろな活動に協力していきたいと思います。





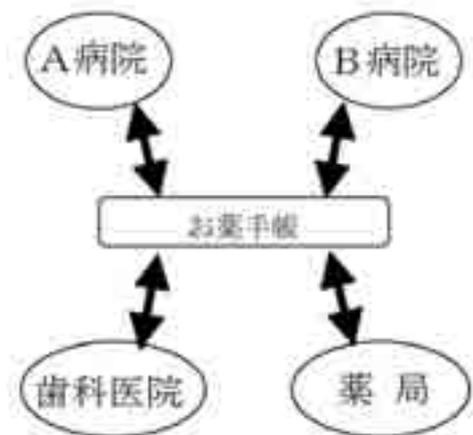
## お薬手帳の活用

「お薬手帳」は、患者さんに処方された薬の名前や服用する量、回数、飲み方などを記録し、携帯するための手帳です。



この手帳は、処方された薬を安全に、より効果的に使用していただくためのものです。医師や薬剤師は、患者さんから提示された手帳により同じ薬が重なっていないか、飲み合わせは大丈夫かなどをチェックします。

「お薬手帳」は、当院薬局でもお渡しができますが、いつもお薬をいただく「かかりつけ薬局」で、もらうとよいでしょう。「お薬手帳」は1人一冊にしましょう。



### お薬手帳の活用方法

- ◆手帳には今まで経験した薬のアレルギーや副作用を記載しておく。
- ◆病院・薬局では必ず医師や薬剤師に提出する。
- ◆入院時には必ず持参して病院スタッフに提出する。
- ◆街の薬局で購入した市販の薬なども記載する。
- ◆薬の説明書もらった場合は手帳と一緒に保管する。
- ◆薬についてわからないこと、困ったことがあれば記載しておく。



# 提案箱

～提案を活用させて頂きました～



より良い病院づくりのため、本院を利用された皆さんから提案をいただいておりますが、その中から次の内容について改善、活用させていただきました。ありがとうございました。

## 提案内容

提案日 平成22年12月

食事の支給が遅い時があるので改善を望みます。

### 対応内容

ご提案ありがとうございました。

食事の配膳は、現在、厨房内にある2基のエレベーターを効率的に使用して、配膳車を17病棟全てに上げておりますが、最初と最後の病棟では時間のずれがどうしても生じてしまいます。少しでも配膳時間を短くするよう努力しておりますので、ご理解していただきますようお願いいたします。

## 提案内容

提案日 平成22年12月

デイルームのカーテンを開け閉めする鎖の部分に点滴用のバーの上部が引っかかり、何度も転倒しそうになったので、引っかからないようにしてください。

### 対応内容

提案ありがとうございました。

現在5階のデイルームについては、鎖が前部に出ないようにするためフックを取り付けました。他のルームについても5階デイルームの状況を確認しながら、よりよい方法を検討していきます。

## 提案日 平成23年1月

給食のごはんの量を増やしていただけないでしょうか。ごはんの大盛が300gではすぐにおなかが減ってしまうので、350gか400gにさせていただきたいです。あくまでも常食に限ってですが。

## 対応内容

ご提案ありがとうございました。

現在お出ししている常食ご飯300gは当院が採用している食種の中で、最大のカロリー（2,400kcal）を摂取できるものです。

当院の食事は「日本人の食事摂取基準」を元に、入院中の身体活動量が少ないことを考慮して計算しているため、2,400kcal以上のカロリー摂取の必要がありません。

また、必要以上のカロリー摂取は、生活習慣病の一因となってしまいます。

以上のことからご飯の量をこれ以上増やすことができないことをご理解していただきますようお願いいたします。

## 提案日 平成23年1月

デイルームの本棚の角に子供がぶつかっても危なくないようにしてほしい。

## 対応内容

ご提案ありがとうございました。

棚の角に直接当たることのないように、ソファとソファの間に本棚を配置換えしました。

## 提案日 平成23年2月

きのう、売店に行ったとき（PM2時頃）1階アトリウムからピアノの音が聞こえていた。日時を病棟に知らせていただけたらと思います。

## 対応内容

ご提案ありがとうございました。

院内コンサートの開催日時・内容について、ポスターのあるものは病棟デイルームに掲示しています。また、ポスターのないものについても病院ホームページ・アトリウム電光掲示板で広報しています。引き続き既存のメディアを活用するとともに、病棟のお知らせ等で広報してまいります。

# あしがき

豊橋市民病院 院長 岡村正造

今年の冬は寒暖の差が激しく、豊橋でも積雪日が年明け後に2日ありました。そのうちの1日は月曜日で、私も病院へ辿り着くのに四苦八苦し、普段なら病院まで車で25分程のところを路面電車、バスと乗り継いで2時間かかり、何とか外来開始時間に間に合ったのをつい先日のように思い出します。また、1月27日には霧島連山・新燃岳の爆発噴火、2月22日にはニュージーランドの直下型地震、そして、3月11日には神戸大震災を凌ぐマグニチュード9の東日本大地震が日本を襲い、被災地は東北地方から首都圏までの広い範囲におよび、空前絶後の被災者を出しています。さらに、福島原子力発電所にも異常が発生し、日本全体が思ってもみなかった深刻な危機に陥っています。しかし、日本人は互いに助け合ってどんな危機でも乗り越えてしまう、という優れた遺伝子を持っているので大丈夫です。

ところで、本号は平成22年度の年度末の発刊予定です。春の草木の芽が吹き、花が咲き始めると頭をよぎる言葉に「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じから

ず」という言葉がありますが、年度末には毎年多くの別れがあります。当院でも、白井副院長、井上整形外科部長と2名の看護師長が長期間にわたる豊橋市民病院での勤務を全うし無事定年を迎え退職されます。白井副院長は名古屋市立大学助教授を辞して当院に転任され、当院眼科診療の質を全国でも有数のレベルまで高めて頂きました。現在も日本眼科学会評議員、日本眼科医会副会長として我が国の眼科診療の質向上のために全国を駆け回っています。さらに、院内では眼科診療以外に病院にとって最も重要な部門である医療安全管理室長を併任され医療事故撲滅のためにあらゆる角度から医療安全対策を施して頂き、まさに獅子奮迅の働きをして下さいました。井上整形外科部長は名古屋大学整形外科の助教授を辞して当院に赴任されましたが、井上部長も手の外科では全国屈指の実力者で、在職中は国内のみならず国際学会での発表も多く、当院から多くの情報を国内外に発信されていきました。当地域での手の外科診療を育てあげるとともに後進の指導・育成にも尽力されました。お二人を失うことは当院にとって実に大きな痛手ではありますが、幸いお二人とも未だ若々しく体力、頭脳とも衰えをしりません。そこで、4月以降も囑託医として当院で外来診療を継続して頂くとともに引き続き後進の育成に協力して頂きますので、患者の皆様にはご安心ください。

最後に、次号では4月に新たに当院に加わる先生方を紹介できると思いますのでご期待下さい。また、当院では本年1月に病院ホームページをリニューアルし、明るく読みやすい画面になっていますので是非一度ご覧ください。

# お知らせ

## 平成22年度ボランティア活動の紹介

### 【アトリウムコンサート】

当院では、アトリウムコンサートを開催し、入院患者さんをはじめ外来の患者さんに音楽を通じて、穏やかな時間を過ごしていただいております。

平成22年度は、森祥子さん、音紡ぎのみなさん等により延べ17回のアトリウムコンサートが開催されました。音楽以外では、金井三千代花教室の皆さんによるいけばな展示も行われました。

また、小児科病棟ではホスピタルクラウンの皆さんによる定期的な訪問があり、入院生活を送る子どもたちに素敵な笑顔を届けてもらっています。



音楽会の様子



いけばな展示

### 【ボランティアグループ ブルーバンブー】

平成18年度にスタートした豊橋市民病院ボランティアグループ「ブルーバンブー」の皆さんは、病院を訪れた患者さんが安心して病院を利用していただけよう、車椅子の乗り降りや外来受診の受け付け介助等を日々行っています。



車椅子介助の様子

# お知らせ

## ご寄附ありがとうございました。

平成22年度は絵画3点、備品4点のご寄附を頂きました。

### 平成22年度の寄附一覧

絵画（家族の関係）	1点
絵画（異国へむかう）	1点
絵画（夏休み）	1点
褥瘡予防用マットレス	1枚
自動電子血圧計	1台
ノート型パソコン	1台
吸引器（医療用）	1台



## 豊橋市民病院の理念

信頼に応える技術、人に優しい思いやりのある心、地域に開かれた安らぎのある病院

## 豊橋市民病院の基本方針

1. 地域に開かれた信頼のある病院、患者に優しい思いやりのある医療を目指します。
2. 地域の基幹病院としてふさわしい高度な医療を提供するとともに、特殊医療、救急医療等を積極的に受け持ちます。
3. 基幹病院としての役割を担いながら、他の医療機関との間の有機的な連携のもとに当院の行うべき医療活動を推進します。
4. 医学及び医療技術の研鑽に努めるとともに、医学・医療の進歩に寄与します。
5. 研修医、医学部学生、看護学生、コメディカル、救急救命士などの教育を積極的に行います。
6. 地域住民の保健知識の普及に努め、健康増進活動に参加します。
7. 公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます。
8. 安全医療の推進に努めます。

当院のご案内は下記でも行っています。併せてご覧下さい。

豊橋市民病院インターネットホームページアドレス

<http://www.municipal-hospital.toyohashi.aichi.jp>

